

# 令和2年度農作物有害動植物発生予察情報 特殊報第4号

令和3年1月25日  
山形県病虫害防除所

- 1 病虫害名 ネギハモグリバエ別系統 (*Liriomyza chinensis* Kato)
- 2 作物名 ねぎ
- 3 発生の経緯
  - (1) 令和2年9月中旬～10月中旬に県内全域で、従来から発生しているネギハモグリバエ(以下、A系統)とは様相の異なる食害が確認された(写真1、2)。
  - (2) これらの被害株から採集したネギハモグリバエの蛹又は成虫(内陸地域1地点、庄内地域4地点)について、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門に同定を依頼したところ、遺伝子解析により、いずれも別系統(以下、B系統)であることが確認された。
  - (3) B系統は、平成28年に京都府で初確認されて以降、これまで22都府県で発生が確認されている。東北地域では、令和2年に岩手県、秋田県、福島県で確認されている。
- 4 形態と生態
  - (1) A系統とB系統の形態による識別は困難である。
  - (2) 両系統とも成虫の体長は約2mm、胸部及び腹部が黒く、その他の部分は淡黄色である(写真3)。幼虫はうじ虫状(写真4)で、成長すると体長約4mmに達する。蛹は体長約3mmの褐色、俵状である。
  - (3) 両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表又は土中で蛹となる。
- 5 被害の特徴
  - (1) B系統はA系統と比較して、1葉に多数の幼虫が寄生し、集中的に加害する傾向にある(写真5)。
  - (2) B系統による初期の食害は、A系統同様不規則な白線状であるが、食害が進むと近接した複数の食害痕が癒合し、葉が白化する(写真6)。葉肉が食い尽くされ、表皮が浮いた状態になり、表皮を剥離すると多数の幼虫が確認される(写真4)。
- 6 寄主範囲

B系統の寄主範囲は解明されていないが、A系統はねぎ、たまねぎ等のネギ属のみ食害する。
- 7 防除対策
  - (1) 生育初期に寄生されると被害が大きくなる恐れがあるため、早期発見に努め、発生初期から防除を徹底する。
  - (2) 現在のところネギハモグリバエの系統の違いにより薬剤感受性が異なるとの報告はないため、薬剤防除に当たっては、「ネギハモグリバエ」又は「ハモグリバエ類」に適用のある薬剤を使用する。
  - (3) 被害葉や収穫残渣は圃場内に放置せず、適切に処分する。
  - (4) 抵抗性害虫出現防止のため、同一系統薬剤の連用を避ける。



写真1 B系統の食害状況



写真2 A系統（従来）の食害状況



写真3 ネギハモグリバエ成虫



写真4 表皮下の幼虫



写真5 多数の幼虫が集中的に加害



写真6 白化した被害葉

山形県病害虫防除所

本 所 tel 023-644-4241 fax 023-644-4746

庄内支所 tel 0235-78-3115 fax 0235-64-2382

山形県病害虫防除所トップページ

<http://agrin.jp/menu/t/790/>

病害虫発生予察情報

<http://agrin.jp/menu/t/563/>